

測り竿を持つ3人の人

2009年2月23日 アシェル・イントレーター

聖書には3箇所、測り竿を持つ人のことについて述べられており、1箇所はエゼキエル書、もう2箇所は黙示録にあります。

エゼキエル 40:2-7: 栄光を受けた人が街や神殿を測っている。

黙示録 11:1-2: 人(ヨハネ)が神殿を測っている

黙示録 21:15-18: 御使いが街を測っている

これらは皆同じなのでしょうか。

黙示録 21 章で、神殿はないことが書かれています。この預言は黙示録 20 章の千年王国の後に来るもので、新しい天と地が述べられている箇所です。この時御使いは新天新地で新しいエルサレムを測っていると結論付けることができます。

黙示録 11 章は主の再臨と千年王国の数章前です。この図では「栄光」ある要素は見受けられません。ここは大艱難期が述べられている箇所です。この時は大艱難期の人間が作った神殿が述べられていると結論付けることができます。

エゼキエル 40 章は終わりの時の大いなる戦いの後で、恐らく主の再臨の直前かと思われます。ここは千年王国についての全体像が40~48章で述べられている箇所です。この時は地上での千円王国期のエルサレムと神殿について述べられている箇所と結論付けることができます。

まとめますと、3つの継続した箇所があり、形式上並行しており、神の御国の3つの段階を通して進展しています。

大艱難期の神殿: 黙示録 11 章(ヨハネ)

千年王国期の神殿とエルサレム: エゼキエル 40 章(御使い)

新天新地のエルサレム: 黙示録 21 章(御使い)

この3つの幻で測り竿がある理由として、この幻が文字通りであり、霊的な幻であるだけでなく、実際の建物や街を述べているのです。

この3つの幻は似ており形式上並行しており、互いにつながりがあることを表しています。大艱難期の神殿は千年王国期の神殿に先行し、さらにそれに代わって天から地に下ってきた新しいエルサレム(黙示録 21 章)が後に続きます。このつながりを見ることによって終わりの時の預言の段階を理解する助けとなります。

イスラエルはみな救われる

ローマ 11:26 で、パウロ(サウロ)は驚くべき預言をしました「こうして、イスラエルはみな救われる。」彼は どうして そう自信を持って言えたのでしょうか。彼は 実際 イザヤ書の一連の預言から引用、解説したのです。彼は以下の個所を基に主張しています。

イザヤ 45:17—イスラエルは主によって救われ、永遠の救いに入る。

イザヤ 45:25—イスラエルの子孫はみな、主によって義とされ、誇る。

イザヤ 60:21—あなたの民はみな正しくなり(後略)。

これらの御言葉はまたラビ的ユダヤ教において重要な形で使われました。タルムード全体の最も重要な個所である「ピルケ・アヴオット」各章の冒頭に、「来る世においてイスラエルはみな分け前がある」という言葉があります。

イザヤ書からのこれらの御言葉は並行する主張の基を形成するものであり、メシアニック・ユダヤ主義およびラビ的ユダヤ主義両方において、恐らくイスラエルの民に対する神のご計画に関する最も重要な主張と思われる。

ラビたちは、ユダヤ人はみな選ばれた民の一員として、または正統派ユダヤ教を実践するユダヤ人はみな伝統を守ることによって義とされ、来るべき世において分け前があると主張します。

パウロ(サウロ)の主張は、終わりの時にイスラエルで全国的なリバイバルが生じ、事実上国全体が、イエシュアが救い主であるという信仰に立ち返るというものです。この預言的な神のご計画はイスラエルのすべてのメシアニック・ジューが事実上一致する中心的な目的の声明なのです。

イスラエルの連立政権

ベニヤミン・ネタニヤフ氏はイスラエル政府において連立政権を形成するために働きかけています。彼は、より広い政府の結束を形成したいと強く希望していることを述べました。私は彼に同意しません。(ルカ 11:17)しかし、この時労働党とカディマ党が彼に協力することを拒絶しました。右派宗教党も結束することを拒絶しました。アヴィグドル・リーバーマン氏(「イスラエル我が家」党首)のみ結束することをネタニヤフ氏と合意しました。

神のみこころがなされますよう、そしてネタニヤフ氏に導きがあるよう祈り続けて下さい。同様に重要な内務大臣の地位についてもお祈り下さい。特に、イスラエルのメシアニック共同体を継続して迫害する超正統派の手にその地位が渡らないようお祈り下さい。

個人伝道

救い主イエシュアの福音を聞くイスラエル人の心が大いに開かれていることを私たちは続けて見えています。これは、個人伝道に対する開かれた天の御国の新しい季節なのです。ここイスラエルで起こっていることは世界中の国々での神の御働きを示すものなので、私は希望を持っています。**「根が聖ければ、枝も聖いのです。(ローマ 11:16)」**

私たちが様々な宣教活動に関わっている中で、最も効果的なのは聖霊の導きによる個人の分かち合いだと私たちは思っています。イエシュアの証を行うために私たちに聖霊の力が与えられ**(使徒 1:8)**、同様に聖霊の油注ぎ**(ルカ 4:18)**、そして聖霊による大胆さ**(使徒 4:29)**も与えられるのです。私たち自身のどのような状況、例え最も悪い状況であっても、聖霊が私たちを通して語られる機会なのです**(マルコ 13:9-11)**。私たちの周りにいる人々に分かち合う際に、聖霊の導きに注意を払うようにしましょう。

何年も前に、毎日摂取する総合ビタミン剤で、名前が「1日1錠」というのがありました。私たちは皆、最低1日1回はイエシュアを証する機会が与えられるよう聖霊に期待するべきではないでしょうか。世界中の信者がこの簡単な習慣を主との日々の歩みの中に入れることを想像してみてください。福音は瞬間に世界中に伝わるでしょう。

これはまさしくイエシュアが私たちに祈るように言われたことなのです。世界中の信者は世界中のすべての人々に福音が知れ渡るようにするための一部となるためです**(ヨハネ 17:21、23)**。どうか祈りに加わり、分かち合いに加わりましょう。